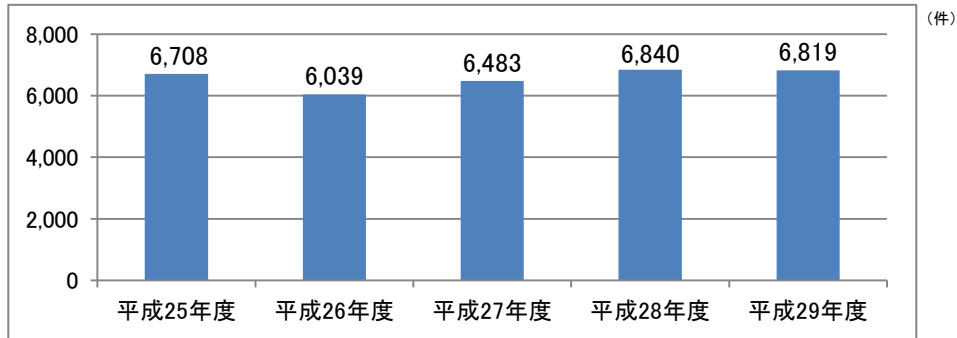


2 手術室内での手術件数

○項目の解説

国立大学附属病院は高度急性期・急性期の要です。外科手術の提供だけでなく、その技術の普及を図ることは、診療と教育という国立大学附属病院の社会的責任を果たすこととなります。外科医、麻酔科医、看護師などの医療チームが手術室を効率的に活用し、どれだけの手術に対応することができるかを表現する指標です。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

病床数600床レベルの国立大学病院で最も多い手術件数を維持しているのが本院の特徴でもあります。手術室は合計13部屋ですが、曜日による手術枠の調整、手術準備時間の短縮、物品準備操作の効率化などの工夫で件数の増加に対応してきました。本年も心臓外科の件数が増加したのに加え、乳腺外科、消化器外科、泌尿器科の手術件数が増加しております。手術室の安全管理は重要であり、他部署間・各職種間の連携が非常に大切と考えています。看護師、臨床工学技士や医師の負担軽減の為に、周辺業務としての医療材料・機材の準備や手術機器の後片付けなどを外注職員の活用で効率的に運用しています。手術部患者情報管理システム・手術部物品搬送システム・手術部物品管理システムなどのIT化が効率的な手術部運営の一助となっています。Hybrid(ハイブリット)手術室*でのTAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)、ロボット支援システムによる手術など最新の医療も安定して提供することが出来ております。

*ハイブリッド手術室: 高性能な透視装置と手術寝台を設置し、各分野の血管内治療に対応するための手術室

○定義

手術室で行われた医科診療報酬請求点数表区分番号K920、K923、K924(輸血関連)以外の手術(医科診療報酬点数表2章第10部手術に記載された項目)の件数です。

ただし複数術野の手術等、1手術で複数手術を行った場合は、合わせて1件とします。

○算式

実数